

グローバル 人材育成研修

8月17日(土)～25日(日)

【研修地の紹介】
オーストラリアクイーンズランド州ブリスベン
今の季節は冬。(最高気温は20度超、湿度はほとんどなく、非常に過ごしやすい気候)森林やビーチ、多様な動植物に囲まれ、都市と自然の両方を同時に体験できる。時差1時間。



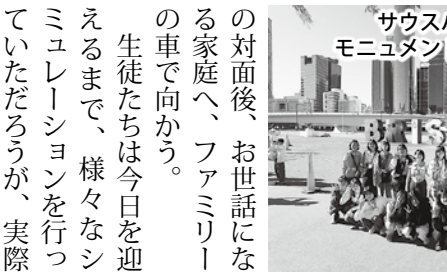
【研修地の紹介】
オーストラリアクイーンズランド州ブリスベン
今の季節は冬。(最高気温は20度超、湿度はほとんどなく、非常に過ごしやすい気候)森林やビーチ、多様な動植物に囲まれ、都市と自然の両方を同時に体験できる。時差1時間。

今回は研修の引率教員でもあった樋口先生に、体験記を寄稿していただいた。オーストラリアでの研修の一端に触れる機会としていただきたい。

ビーチ観光
6日目 現地校研修(スポーツデー)
7日目 現地校研修最終日
8日目 終日ホストファミリーと過ごす
9日目 帰国
【1日目】 出国。
成田空港では、セルフチェックイン、バゲージドロップなど全て自分で済ませ、日本時間午後11時に離陸。



【2日目】朝8時過ぎに現地到着。
現地で待っていた研修の案内役であるマリークから、「まずはみなさん自分の飲み物を買ってきてください」と一言。多くの生徒にとって、これが初めての海外での買い物となった。炭酸水と間違えないように水を買った後、ブリスベン市内の観光へ。
最初に訪れたのはローン・パイン・コアラサンクチュアリ。ここはオーストラリアの固有種である、コアラやカンガルーとの触れ合いをはじめ、様々な動物を鑑賞できる動物園である。動物たちに長旅の疲れを癒してもらい、ブリスベン市内を一望できるマウント・クーサや、サウスバンクを巡り、今回の研修の舞台である、ゴールドコーストへと向かう。
ホストファミリーと



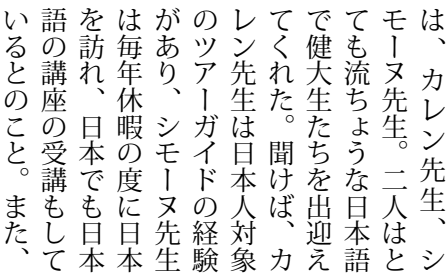
の対面後、お世話になる家庭へ、ファミリーの車で向かう。
生徒たちは今日を迎えるまで、様々なシミュレーションを行っていたが、実際に聞くネイティブの英語はなかなか聞き取れなかったに違いない。質問を聞き返したいが、会話は早く流れていく。つい分かったようなふりをしてしまったが、なかなか言葉が出なかったり。期待と不安が交差する気持ちの中、明日はいよいよ現地校生徒との交流だ。

の授業で、英語でのゲームや会話の練習後、「モーニング・ティ」の時間だ。「モーニング・ティ」はオーストラリアの文化で、朝食と昼食の間にとるティータイム(間食)である。毎日この時間は、バディとなる現地校生徒が健大生を迎えに来る時間だ。バディとの初対面。健大生はこの日のためにお土産を用意し、どんな自己紹介をしようか、どんな会話をしようか、想像を膨らませていたに違いない。



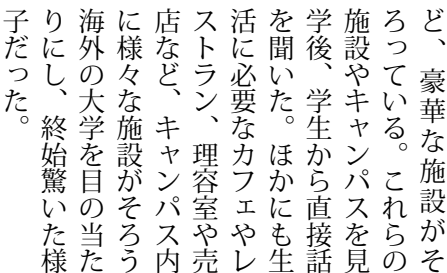
15時過ぎ授業終了。バディの子たちは、健大生のために色々質問をしたり、授業の説明のために様々な行動を起こしてくれたり。バディの殆どは健大生より年下で、中には中学生もいたが、積極的にコミュニケーションをとってくれた。もし逆の立場だったらどうだろうか。コミュニケーション一つとっても、彼らから学ぶことは多い。

【4日目】生徒からは、「ホストファミリーと昨日までよりもいろんな会話ができた!」という声や、「今日はバディの子たちとさらに仲良くなりたい!」といった声も聞かれ、充実した時間を過ごしていることが伺える。



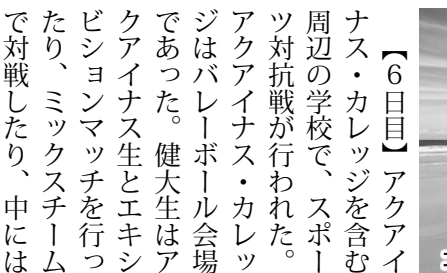
【3日目】朝7時45分集合。
研修の会場のアクアイナス・カレッジは、カトリック教育を行う中高一貫校である。午前中はマーク先生

【5日目】休日。
近隣の大学へのキャンパスツアー・サファーズパラダイスへ。
見学先は、ゴールドコーストほか複数の地域にキャンパスを構える、グリフィス大学。このキャンパスでは、医学、歯学や理学療法などの健康に関する分野を中心に、ビジネスやIT分野の研究も行われている。150億円以上を投じて建設された医学部専用施設や、併設の総合病院など、豪華な施設がそろっている。これらの施設やキャンパスを見学後、学生から直接話を聞いた。ほかにも生活に必要なカフェやレストラン、理容室や売店など、キャンパス内に様々な施設がそろった海外の大学を目の当たりにし、終始驚いた様子だった。



【5日目】休日。
近隣の大学へのキャンパスツアー・サファーズパラダイスへ。
見学先は、ゴールドコーストほか複数の地域にキャンパスを構える、グリフィス大学。このキャンパスでは、医学、歯学や理学療法などの健康に関する分野を中心に、ビジネスやIT分野の研究も行われている。150億円以上を投じて建設された医学部専用施設や、併設の総合病院など、豪華な施設がそろっている。これらの施設やキャンパスを見学後、学生から直接話を聞いた。ほかにも生活に必要なカフェやレストラン、理容室や売店など、キャンパス内に様々な施設がそろった海外の大学を目の当たりにし、終始驚いた様子だった。

【6日目】アクアイナス・カレッジを含む周辺の学校で、スポーツ対抗戦が行われた。アクアイナス・カレッジはバレーボール会場であった。健大生はアクアイナス生とエキシビジョンマッチを行ったり、ミックスチームで対戦したり、中にはアクアイナス生チームに混じって、周辺校チームと対戦する生徒もいた。アクアイナス生とも打ち解けて、積極的にコミュニケーションが取れる様子も見られた。



「スポーツは言語の壁を超える」――よく聞くフレーズだが、多くの生徒は今回のレクリエーションを通じて初めて実感できたことだろう。こうした一つ一つの国際経験が、生徒たちにとってかけがえのない思い出となったに違いない。

【7日目】現地校での研修最終日。お別れパーティー。
お別れパーティーを楽しむ両校の生徒たち



健大生を代表し、谷口尊積さん(2年生)が感謝のスピーチを行った。ピザパーティーで親睦を深めたのち、修了証と記念品が授与された。午後の授業を終えると、健大生とアクアイナス生は連絡先やプレゼントの交換をし、互いに別れを惜しむ姿が見られた。

【8日目】終日ホストファミリーと。
観光に行ったり、買い物に行ったり、ホストファミリーの親戚と集まったり、それぞれ充実した時間を過ごせたようだ。多くの健大生からは、「ホストファミリーといるときは安心感があつた」という言葉も聞かれた。はじめは緊張した様子だったが、ひとたび学校が始まれば、ホストファミリーが迎えてくれる家はリラックスできる空間となる。そんな安心感を与えてくれる存在であった。



【最終日】朝5時20分アクアイナス・カレッジ前集合。
手紙を渡したり、写真撮ったり、ホストファミリーと最後の別れを惜しむ。
ホストファミリーと色々な話をするには、生徒たちの英語力は十分とは言えなかったかもしれない。それでも、この9日間で多くの思い出を共有し、確かな絆が生まれたことは間違いない。再会を願いながら、バスは空港へと走った。

出発前と比べ長旅を終えた今、久々に家族に会った生徒たちは、まるで一回りレベルアップしたように感じたはずだ。そして、9日間の研修を通じて、コミュニケーションの大切さ、表現することの大切さ、行動力、思いやり、友情……たくさんの「人生における大切なこと」に気づいたに違いない。



【編集後記】
今回は、我々としても、牛丼の食比べ企画という新しい試みに挑戦させていただき、感謝の気持ちを込めて企画を行った。企画も楽しく記事を作れたので、読んで下さる皆さんにも楽しんでもらえるように幸いである。また担当の樋口先生に協力していただき、グローバル人材育成研修の記事を掲載しました。海外研修の楽しさやホームステイの生活について、より多くのの人に知ってもらえたら嬉しいですね。ぜひ、次回の新聞も楽しみに待っていてください。
(新聞放送部部長 清水 響)